

平成 22 年度特別調査について(案)

- 平成 22 年度 DPC 特別調査は、
 - (1) DPC 制度導入影響の評価
 - (2) 機能評価係数Ⅱを含めた診療報酬評価の在り方について調査することとされている(平成 22 年 8 月 3 日・中医協総会【総一2】等)。
- 今回、DPC 制度導入影響の評価として、
 - 1. 再入院(再転棟)に係る調査
 - 2. 化学療法等の外来、入院別実施状況調査
 - 3. 医師あたり患者数等の動向調査の3点の調査を行う。
- なお、機能評価係数Ⅱを含めた診療報酬評価の在り方に関する調査については、今後の中医協総会、DPC 分科会等の議論を踏まえ、必要に応じて行うこととする。

1. 再入院(再転棟)に係る調査

(1) 調査の目的

- 医療の効率化の 1 つの指標として在院日数が用いられるが、在院日数の短縮が図られている中で、提供されている医療サービスが低下していないかどうかを再入院(再転棟)の頻度やその理由を指標として検証する。(従来と同様)

(2) 調査方法

- 再入院ありと判断された患者については「再入院調査票」により再入院の状況の調査を行うが、これまでの調査結果を踏まえ、計画的な再入院について化学療法、放射線療法の選択肢をわける、選択頻度の少ない項目を統合する、など調査票の見直しを【資料D-1-2】、【資料D-1-3】のとおり行う。
- 再転棟患者についても同旨の調査を行う。
- 再入院、再転棟患者の抽出は、従来と同様の手法で行うこととし、平成 22 年退院患者に係る調査実施期間中に収集された退院患者データから行う。
- すべての DPC 対象病院、DPC 準備病院を対象とする。(平成 21 年度に調査対象となった医療機関は再入院調査 1,607 病院、再転棟調査 611 病院)

2. 化学療法等の外来、入院別実施状況調査

(1) 調査の目的

- がん医療については、一般に外来での診療が推進される傾向にあるが、DPC 制度が逆に、外来化学療法の推進を抑制していないか(入院で化学療法を実施するインセンティブが働くのではないか)、化学療法の入院／外来での実施状況の調査による評価を試みる。同様に、放射線療法、短期滞在手術についても調査対象とする。
- また、これらの入院／外来での実施状況について、地域や施設特性等による影響の有無についても併せて検討する。

(2) 調査方法

- 化学療法、放射線療法及び短期滞在手術に関し、入院での実施状況については既存の通常調査データから調査することとするが、既存のデータで把握できない、外来での実施状況は、診療報酬上、算定件数が把握できる、以下の項目について経年変化を調査する【資料D-1-4、問3】。

(化学療法)

- ・ 外来化学療法加算1、外来化学療法加算 2

(放射線療法)

- ・ 高エネルギー放射線治療、強度変調放射線治療
- ・ ガンマナイフによる定位放射線治療
- ・ 直線加速器による定位放射線治療

(短期滞在手術)

- ・ 痔核手術
- ・ ヘルニア手術(鼠径ヘルニア)
- ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
- ・ 水晶体再建術、後発白内障手術
- ・ 心臓カテーテル法による諸検査
- ・ 胃・十二指腸ファイバースコープ、大腸ファイバースコープ
- ・ 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ粘膜切除術
- ・ 内視鏡的結腸ポリープ粘膜切除術、内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術

- 化学療法に関しては、症例数が多く、外来においても実施可能な以下のものに対し、医療機関毎に調査期間中の実施件数を調査する。【資料D-1-4、問4】
 - ・ 大腸がんに対する FOLFOX/FOLFIRI 療法
 - ・ 胃癌もしくは乳癌に対するパクリタキセル単剤療法
 - ・ 卵巣癌、子宮頸癌、子宮体癌もしくは肺癌に対するパクリタキセル、カルボプラチン併用療法

- すべての DPC 対象病院、DPC 準備病院を対象とする。

3. 医師あたり患者数等の動向調査

(1) 調査の目的

- 在院日数の短縮等に伴い、勤務医一人あたりの業務量が増大していないか、実際に従事した医師数と実施件数等が特定可能な診療内容に関して実施状況の調査により評価を試みる。

(2) 調査方法

- 以下のとおりの、実施件数が診療報酬上の算定等から把握可能な項目や、通常調査のデータから調査可能な項目について経年変化の調査を行い、併せて、関係する医師数の報告を求め、医師1人あたりの実施件数を推定する【資料D-1-4 問1、問2】。

医師数	調査対象とする実施件数
① 医師数の特定が比較的容易なもの	
全医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日平均外来患者数 ・ 1日平均入院患者数
産婦人科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分娩数(うち異常分娩数)
小児科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15歳以下の入院で、手術を伴わないもの
麻酔科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ マスクまたは気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔
脳外科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「K145 穿頭脳室ドレナージ術」から「K177 脳動脈瘤頸部クリッピング」までの総算定件数
心臓血管外科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「K538 心膜縫合術」から「K605-4 同種心肺移植術」までのうち、開胸を伴うものの総算定件数
整形外科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「K060 関節切開術」から「K144 体外式脊椎固定術」までの総算定件数
眼科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水晶体再建術、後発白内障手術
放射線科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高エネルギー放射線治療、強度変調放射線治療 ・ ガンマナイフによる定位放射線治療 ・ 直線加速器による定位放射線治療
② 医師数の特定がやや困難なもの	
循環器内科医師数等のカテーテル検査・手術の従事者数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓カテーテル法による諸検査 ・ 「K546 経皮的冠動脈形成術」から「K550-2 経皮的冠動脈血栓吸引術」までの総算定件数
消化器内科医師数等の消化管内視鏡検査・手術従事者数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃・十二指腸ファイバースコーピー ・ 大腸ファイバースコーピー ・ 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ、粘膜切除術 ・ 内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術

③ 医師数の特定が難しいもの	
救急医療に従事する 医師数	<ul style="list-style-type: none">・救急車等で搬送された患者数・うち、入院した患者数

○ すべての DPC 対象病院、DPC 準備病院を対象とする。